

平成24年度第2回SPODネットワークコア運営協議会 議事次第

日 時：平成24年5月22日（火） 10：30～12：00

場 所：各コア校（遠隔会議システム利用）

議 題：

1. SPOD事業評価について

- ・平成23年度SPOD事業の評価について 【資料1－1】
- ・事業評価シート 【資料1－2】
- ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(SPOD)事業評価委員会要項 【参考資料1】
- ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業評価委員会委員名簿 【参考資料2】

2. SPODフォーラムについて

- ・SPODフォーラム2012プログラム（案） 【資料2】
- ・SPODフォーラム2012実施要項 【参考資料3】
- ・SPODフォーラム2013について 【資料なし】

3. 他フォーラム派遣者からの意見について

- ・他フォーラム派遣者からの意見について 【資料3】
- ・他フォーラム派遣の報告書 【参考資料4】

4. 学務系職員養成プログラム研修（レベルⅡ）の開催について

- ・学務系職員養成プログラム研修（レベルⅡ）実施要項 【資料4】

平成23年度SPOD事業の評価について

SPODでは、毎年度事業評価を行い、次年度の事業に活用することとしている。

このたび、平成23年度事業について、5名の「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業評価委員会委員から活動報告書及びヒアリングをもとに評価をいただいた。

各委員からは、補助金事業終了後も引き続き全ての加盟校が参画し、負担金を支出することにより事業を継続していることについて、高い評価をいただいている一方、アンケート結果の検証やニーズ把握の必要性等、これまでの取組、成果を再度見直す時期であることを示唆するコメントもいただいている。

各委員からの主な意見は以下のとおり。

【本事業の強みや期待など】

①FD

- ・四国地区の高等教育機関33校すべてが加盟していることが何よりの強みである。
- ・SPOD共通事業としてSPOD内講師派遣を年間23機関という多数の大学等で行ったことは、小規模の私立大学や短大の新しい支援策として高く評価できる。
- ・これまで愛媛大学で実施してこられたSPODフォーラムが、来年度から徳島大学で実施されることはSPODのこれからの展開を考えると、大きな前進につながると思う。
- ・多様なFDプログラムを開発していること。とくに、教員のキャリアの段階別に開発している点は、ニーズに適格に対応するために、必要かつ有効である。
- ・SPOD加盟の大学が、それぞれFDの実施に取り組んでいることは、運動の広がりを見せている。
- ・コア校による講師派遣事業は、加盟校ごとに小規模校において、各校のニーズに見合ったFD／SD研修会を開催することを可能にした。
- ・大学教員は、教員免許を必要としない。授業を充実させるための様々な研修を教員に提供する意義は高い。特に、若い時期（新規採用時や大学院生、ポスドク）に受講することは、重要である。受講し易いプログラムとして整備されるよう望む。
- ・FDの継続性において、指導するファシリテーター養成は重要である。本事業にFDファシリテーター養成プログラムがあることに、高い見識をみる。
- ・新任教員研修に関してコア校間で内容を共有できている。全国に先駆けたモデルである。
- ・派遣事業を担当できる講師が順調に増えている。

②SD

- ・FDだけでなくSDにおいても、SPOD内講師派遣が行われていることは評価できる。
- ・大学職員一般向けの内容にとどまらず、職務別のプログラムの開発に努めている。
- ・SDを担当できる職員＝SDerの養成に取り組んでいる。これはFDerの発展形態であろうが、必要な視点と思われる。
- ・SD講師養成に関する取組によって、SPODのSDプログラムを実施できる者が増員され、プログラムの普及に貢献している。
- ・本事業に参加して他大学職員との触れ合いに意義を見出しているアンケート結果が多い。日常業務に埋没している環境から離れ、視点の違う多様な価値観に触れる機会は、自己開

発を起こすきっかけになる。参加することが現場での活動に資するということを肌で感じる広報を願いたい。

③組織運営等

- ・補助金事業を引き継いだ新たな共同事業の初年度にあたって、加盟校すべてがこれに参画することができたことは特筆に値する。
- ・SPOD内の国立大学法人にFDの先進大学が複数存在すること。
- ・職員の大学内、大学間の横の連携がとれていること。
- ・職員がかなり積極的にSPODに関わっていること。
- ・SPODの加盟大学によるネットワークコア運営協議会を定期的開催している。
- ・遠隔会議を取り入れている点は、無理のない開催形式を追求した結果と思われる。
- ・総会・コア校会議等の議事も公正かつ効率的に行われており、事業の運営をスムーズにしている要因となっている。

【本事業の弱みや改善点など】

①多様なニーズに応じた研修プログラムの開発

- ・研修プログラムがマンネリ化しているとの指摘もあり、プログラムの標準化と並行しながら、新たな研修プログラムの企画も必要である。
- ・経営者・管理者に対するミドル・レベルの研修については、SPODフォーラムで実施されたが、今後のSDの展開にとって重要なものとなることが予想され、今後のプログラム内容の充実が望まれる。
- ・シニア教員とジュニア教員においては、それぞれニーズが異なる。この状況を精査し、ネットワークコア運営協議会において、それぞれのニーズに適したFD研修プログラムの検討が必要である。
- ・アンケート結果からみて、受講目的をよく理解させて受講させるような工夫が必要である。

②FDe r, SDC, SD講師の養成

- ・小規模の大学等に在籍する人たちの中から、FDe rのような教育改革を担う人を発掘し育て、コア校の人たちと同等に活躍する人が出て欲しい。
- ・コア校による講師派遣事業の進捗は、講師となるコア校教員の負担をそれなりに増大させており、FDe r養成の成果などをもとにしながら、なんらかの形で派遣教員のすそ野を拡大していくことが必要ではないか。
- ・SPODフォーラムや派遣事業を担当できる講師が限定されているので、いかに増やすことができるかが課題である。

③教員の資格化

- ・新任教員研修を通して身についた能力証明が標準化されていないことが課題である。

④他機関等との連携

- ・SPODの地域性や資金面を考えると、国だけではなく地域の行政や民間企業との交流機会をつくっていく必要がある。

⑤SPOD内におけるネットワークの強化

- ・FDプログラムにおける新任教員研修の様に、四国内の新任職員だけが交流する機会があるとよいのではないかな。
- ・SD全般に関して、まず共同して「大学職員になろうキャンペーン」に取り組むべきではないか。また社会に対しては、「四国で学ぼうキャンペーン」に取り組むなどして、大学職員発の共同企画を通しながら、アクションラーニングを推進するべきではないか。

【次年度へ向けての提案】

①多様なニーズに応じた研修プログラムの開発

- ・FD／SDに共通してミドル・レベル、マクロ・レベルのプログラム開発について検討する必要がある。

②SPODにおける取組の評価、検証

- ・これまでの研修修了者において、受講前と受講後の違いなどに関するエビデンスの集積を願いたい。例えば、受講3年後の受講者の現状について、受講成果を評価し、研修が役立ったことのエビデンスについて紹介願いたい。
- ・すでに進行しているSPOD事業の評価・検証手法の開発について、外部資金の獲得などをも視野に入れた対応を検討する。

③SPOD事業の取組成果の情報発信

- ・SPODの存在や活動を内外に示すためにも、年に一度の「報告書」だけでなく、年に数度「SPOD News」を発行してはどうか。
- ・四国内の各県の新聞やテレビ等のマスコミを積極的に活用して、四国内での認知度を上げられてはどうか。
- ・加盟各校のFD・SDニーズをいかにキャッチするか、ニーズに応じたプログラムをいかに開発・提供するかについて、ぜひ知見を他地域の大学・ネットワークにも提供いただきたい。

④SPODの事業運営について

- ・SPODフォーラムの開催場所については、引き続き持ち回りが望ましい。

SPODフォーラム2012 プログラム案

平成24年5月18日現在

統一テーマ: 学生に深い学びをもたらすために

第1日目<8月22日(水)>

		4-202	4-302	4-402	4-404	5-302・303	6-201	4-303
9:00				FD・SD共通				FD
10:00～12:00 120分	1	SD 職員のための科研費 アブライ講座 [阿部光伸] [愛媛大学]	FD 授業研究会、授業コン サルテーションのすすめ [香川順子・川野卓二] [徳島大学]	教員主導・学生主体 の授業の進め方 [中村文子] 【ダイナミックヒューマン キャピタル】 17:00 終了	FD・SD共通 学生支援概論 [野本ひさ] [愛媛大学]	SD 部下を活かすための コーチング講座 ～助言・指導・評価 のコツ～	FD ニーズに合わせた 初任者研修開発講座 [宮田政徳・吉田 博] [徳島大学]	ティーチング ポートフォリオ 更新ワークショップ [栗田佳代子] 【大学評価・学位授与機構】
12:00～13:00	昼					[秦 敬治・上甲功治] [愛媛大学]		
13:00～15:00 120分	2	SD (仮)求められる大学職 員に なるために ～あなたの行動が 大学を変える～	FD グラフィック シラバスの書き方 [佐藤浩章] [愛媛大学]		FD・SD共通 身近な危機管理Ⅰ(基礎編) ～キャンパス内の ハラスメント対応～ [赤坂和哉][徳島大学]		FD 教養教育を担当する教員 のための授業づくり講座 [斉藤隆仁・吉田 博] [徳島大学]	
15:30～17:30 120分	3	[SPOD次世代リーダー 研修2期生]	FD 学習評価の基本 [川野卓二] [徳島大学]		FD・SD共通 身近な危機管理Ⅱ(応用編) ～事例から考える ハラスメント対処法～ [阿部光伸・吉田一恵] [愛媛大学]		FD 理工系講義形式 基礎科目授業 ～学生を輝かせるひと工夫～ [吉田博][徳島大学] [梶原暢久][芝浦工業大学]	

受付・クローク: 4-201(8:30-18:00)

休憩室: 5号館学習自習スペース・会議室

SPODフォーラム2012 プログラム案

第2日目<8月23日(木)>

		4-202	4-302	4-402	4-404	5-302・303	6-201
9:00～10:30 90分	1	SD 若手・中堅職員のための コーディネート力養成講座 [仲道雅輝][愛媛大学]	FD 学生の学ぶ意欲を 引き出す授業とは？ [岩中貴裕] [香川大学]	FD・SD共通 異文化コミュニケーション ・トレーニング [坂田 浩] [徳島大学]	FD 授業に活かせる記憶と 忘却の教育学 [佐藤浩章] [愛媛大学]	FD・SD共通 学生との協働を進める 際の学生への関わり方 [藤本佳奈] [香川大学]	SD 大学職員のための 企画力養成講座 [大竹奈津子・米澤慎二・ 阿部光伸][愛媛大学] [宮田和美][聖カタリナ大 学]
11:00～13:00 120分	2 + 昼	テーマ別ランチョンセミナー					
		これからの職員に 求められる 教育力養成講座 [秦 敬治] [愛媛大学]	臨床教育のグッド プラクティスを探せ！ [小林直人] [愛媛大学]	人が生き生きと働ける 職場づくりを目指して ～「ワールド・カフェ」で 体験しよう！対話の力～ [末本美千代][高知大学] [野口里美][香川大学]	私たちはどのような時に 深く学んでいるのか？ ～これまでの経験から 深い学びについて考える～ [香川順子][徳島大学]	学生と協働したFD・SD の取り組みに学ぶ [塩崎俊彦][高知大学] [藤本佳奈][香川大学] [吉田 博][徳島大学]	
13:00～13:30	移動						
13:30～15:00 90分	3	SD 職場内における 人材育成の仕方 [近田安晋][徳島大学] [米澤慎二][愛媛大学]	FD 大人数講義法 [小林直人] [愛媛大学]	FD・SD共通 トップリーダーセミナー 高等教育の質保証の ための認証評価活用法 [栗田佳代子] [大学評価・学位授与機構]	FD 自立的学習への支援に向けて ～授業外学習を促すために～ [坂田浩・福田スティーブ] [徳島大学]	大学院生・学生 キャンパス元気 プロジェクトin徳島 [SPOD加盟校の学生]	SD 社会連携四方山話 ～今日までそして明日から～ [土居修身・兒玉直子] [愛媛大学]
15:30～17:50 140分	4	シンポジウム「アクティブ・ラーニングを通して、いかに学生に深い学びをもたらすか」 ～教員・職員と共に考える～ パネリスト：溝上慎一（京都大学） ゲーリー土持法一（帝京大学） 〇〇（高知工科大学） 司会進行：宮田政徳（徳島大学） （共通講義棟6階 創成学習スタジオ）					
18:30～		懇親会（生協食堂）					

受付・クローク：4-201（8:30-18:30）

休憩室：5号館学習自習スペース・会議室

SPODフォーラム2012 プログラム案

第3日目<8月24日(金)>

		4-202	4-302	4-402	4-404	5-302・303	6-201
9:00～10:30 90分	1	SD 若手・中堅職員のための 判断力・決断力養成講座 〔秦 敬治・仲道雅輝・ 谷中恭伸〕 【愛媛大学】	FD 小グループペア学習 を取り入れた授業 〔俣野秀典〕 【高知大学】	FD・SD共通	SD スタッフポートフォリオ 作成ワークショップ 〔阿部光伸・人事課〕 【愛媛大学】 〔玉岡兼治〕【聖カタリナ大 学】	大学院生・学生 キャンパス元気 プロジェクトin徳島 〔SPOD加盟校の学生〕	FD・SD共通 学習成果をどう測定し、 活用するか？ 〔山田 剛史〕 【愛媛大学】
11:00～12:30 90分	2		FD 揺らぐ高専生を支える 学生サポートのために ～教育ツール及び 教育システム～ 〔坪井泰士〕【阿南高専】	教え方の極意 ～学生に深い学びをもた らす伝え方&指導法と は？～ 〔田中省三〕 【愛媛大学】			FD アクティブ・ラーニングの 実践 〔金西計英〕 【徳島大学】
12:30～13:30	昼						
13:30～15:30 120分	3	SD 後輩ができた若手・中堅 職員のための観察力 養成講座 〔仲道雅輝・岸岡洋介・ 久保秀二〕 【愛媛大学】	FD ルーブリック評価 〔俣野秀典〕 【高知大学】		SD 職場内における メンタリングのコツ 〔大竹奈津子・秋谷恵子〕 【愛媛大学】 〔貞弘展広〕【高知大学】	FD 学習理論に基づいた協 同学習による授業改善 の手法 〔立川 明〕 【高知大学】	FD 社会人と学生が共に学ぶ アクティブラーニング 〔大橋 眞〕 【徳島大学】

受付・クローク:4-201(8:30-16:00)

休憩室:5号館学習自習スペース・会議室

他フォーラム派遣者からの意見について

SPODでは、毎年、4日間のSPODフォーラムを開催してきました。その内容について高く評価されているところですが、企画・運営等に携わっている各SPOD加盟校のFD/SD/事務担当者の中には、SPODフォーラムしか知らない方もいると思われます。

そこで、以下の他のネットワーク等が行っているフォーラムにSPOD加盟校のFD/SD/事務担当者を派遣し、SPODフォーラムのよかった点、学ぶべき点、活かせる点について意見を提出してもらいました。

以下が、そのまとめとなります。

派遣日	派遣先	派遣者数
H24.3.3-4	第17回FDフォーラム 大学コンソーシアム京都	2名
H24.3.3	大学教育改革in東海2012 FD・SDコンソーシアム名古屋	2名
H24.3.15-16	第18回大学教育研究フォーラム 京都大学	1名
計		5名

【SPODフォーラムのよい点】

- 県外の大学、短期大学、事務職員との相互交流や教育に関する討論する場を設けてあり、今後ともSPODフォーラムで行っている教職員の相互交流や情報交換はこなってほしい。
- 事前登録制を採用し、適切な人数調整が行われていること。
- 適切な人数によるワークショップも取り入れたプログラム運営のお陰で、参加者との交流・意見や情報交換がスムーズに行われていると感じました。
- 日程も長期にわたっており選択肢が多いため、興味のあるプログラムの選択が可能である。
- 大学生や大学院生用のプログラムを設定いただいているため、学生同士の交流も広くできること。

【SPODフォーラムへの改善・検討要望事項】

	事項	対応案
1	研究発表に関わる予稿集がHP上で公表されていますので(注:非公開の資料もありましたので、該当者の公表の意志の確認が行われているものと思われます)、当日参加できなかった発表内容について後日情報を得ることができるという点では有用ではないか	SPODのホームページでも、当日の配付資料を公開するようにしている(講師の承諾を得た資料のみ)。今後は開催後にもプログラム、シラバス等を確認できるよう、ホームページの改修を含め検討していく。
2	大学におけるキャリア教育の目指す方向を、豊富な資料を提示しながら、企業の社員教育を担当している方から聞いた。	SPODでは基本的に、FD・SDともに、持続的なプログラム実施のために、SPOD加盟校内での講師の養成に努めているところである。しかし、他機関からの講師・発表者というものも、新鮮で有効であると思われる。今後、SPOD運営予算の範囲内で、可能であれば他機関からの講師招聘も検討したい。
3	大会場のシンポジウムであっても、周囲の聴講者とのグループワークが入っていて、交流ができた。	SPODフォーラムのシンポジウムは、時間が2時間と短く、自己紹介や休憩時間等をとっていない。今後は全体のタイムスケジュールを含め検討していく。また、シンポジウムでは挙手による意見交換を行っていたので、今後はフォーラム申込み時に事前に質問を受け付けることも検討する。
4	通常のフォーラムのシンポジウムでは、参加者との交流がない。しかし、今回は開始直後に、周囲の参加者との1分間の自己紹介を行い、また途中での休憩の前に周囲の4-5人のグループ(他の大学・短期大学の教員や職員)とキャリア教育やシンポジウムの講演内容についての討論を約20分間行った。そこでの討論の質問を持ち寄り、講演者が回答し、またその内容をさらに会場で討論するというスタイルはよかった。	
5	質問は質問用紙による質問あるいはメールやtwitterでの質問であり、このような質問形式では、より多くの質問が出されるのではないかとと思われる。	
6	同じ学部・学科等をもつ大学が、細分化された共通の話題で話し合うことが可能になっている。	SPODでは、昨年度のフォーラムから専門分野対応のプログラムを提供しており、今回のフォーラムでも、医療系、高専系、理工系等を対象としたプログラムを実施し、情報共有の機会を設けている。また、別途FD/SD分科会等で規模別・設置形態別・学部別等に細分化して話し合う機会を設けることを検討する。
7	日頃から、同じ専攻課程を持つ加盟校の教員同士の交流や情報の共有が行われている様子が感じられた。	
8	会場での人員配置がスムーズであり、事前にメールでの参加証の配布で、そのメールを提示することで、出席確認できる方式であり、大勢の参加者に対応するにはこのシステムがいいと思われる。	SPODでは、受付完了時に送付するメールを参加証の代わりとしているが、受付時には提示を義務づけていない。今後の参考にさせていただく。
9	FD/SDに関連した何らかの発表の場(たとえば、ポスター発表等)による交流もあってもよいのではないかと感じました。	SPODフォーラムにおいても、加盟校のチラシや冊子等を展示、配付し参加者同士の交流を促すスペースを用意しているが、ポスターセッションのような事例を直接聞いて、交流を図れるようなスペースについても検討していく。
10	時間を設定して頂いて、他大学の取組を直接担当者と情報交換ができる場があってもよいかもしれません。	
11	ポスターセッションを開催されており、様々な事例に触れることができたことがよかった。	
12	ミニシンポジウムや分科会のテーマがFDの再検討、海外のコンソーシアム活動、災害対策、発達障害、留学支援と多岐にわたっている点が良かった。	SPODフォーラムは実践力を重視したプログラムを提供している。今後は参加者の希望をもとに、新規プログラム開発を含め、検討していく。

学務系職員養成プログラム研修（レベルⅡ）実施要項

1. 目 的

SPOD加盟校の職員が高等教育機関の学務系業務担当職員として求められる専門的な素養を習得することを目的とする。

2. 到達目標

■学生相談実践

- ・学生の抱える問題や相談に適切にアドバイスをすることができる。
- ・問題のある学生に対して、指導教員及び学内関係機関と連携して対応すること

■学生危機管理対応実践

- ・学生生活における危険性（携帯電話・PC等サイト、カルト、薬物等）から学生を守る対応策を考えることができる。

■入試情報分析論

- ・受験生、保護者、高校とのニーズについて分析することができる
- ・入試に関するデータを分析することができる

■インターンシップ支援実践

- ・インターンシップ受入企業と連絡調整をすることができる。
- ・インターンシップ受入企業を開拓することができる。

■高等教育比較・分析論

- ・高等教育施策と自大学等の現状を比較・分析することができる。
- ・他大学等と自大学等の教育内容を比較・分析することができる。

3. 対象者

係長・主任相当級の職員

4. 期 間

平成24年7月12日（木）～13日（金）

5. 場 所

愛媛大学本部2階 第2会議室

6. 日 程

別紙「研修日程表」のとおり

7. 担当講師

愛媛大学学生支援センター 副センター長 野本 ひさ 他

8. 受講定員

30名

9. 受講証明書

研修を修了した者には受講証明書を交付する。

10. 主 催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）